



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月14日
東

上場会社名 株式会社 久世 上場取引所
 コード番号 2708 URL <https://www.kuze.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)久世 真也
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)市川 明夫 (TEL)03(3987)0018
 コーポレートサポート本部長
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (動画配信を予定しております)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	26,192	36.3	59	—	85	—	104	—
2022年3月期第2四半期	19,219	18.9	△961	—	△831	—	△797	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 194百万円 (—%) 2022年3月期第2四半期 △655百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	22 78	—
2022年3月期第2四半期	△215 39	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	18,713	3,672	19.6
2022年3月期	17,674	2,777	15.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 3,672百万円 2022年3月期 2,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0 00	—	0 00	0 00
2023年3月期	—	0 00			
2023年3月期(予想)			—	—	—

(注) 2023年3月期の配当予想につきましては、現時点では未定とさせていただきます。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	54,000	23.1	350	—	360	—	280	75 65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期2Q	4,626,327株	2022年3月期	3,882,500株
2023年3月期2Q	一株	2022年3月期	181,118株
2023年3月期2Q	4,570,729株	2022年3月期2Q	3,701,382株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、7月～8月にかけて新型コロナウイルス感染拡大の第7波に見舞われたものの、緊急事態宣言等の行動制限は発出されず、サービス業を中心に緩やかな回復傾向にありました。一方で米国の金利引き上げに伴う急激な円安による諸物価の高騰が進み、また長引くロシアのウクライナ侵攻等に起因する世界的なエネルギー価格の高止まりやサプライチェーンの混乱が続いており、景気の先行きは不透明な状況にあります。

当社グループが事業活動の中心としております外食・中食市場については、外食市場では客足は徐々に回復しているものの、仕入価格の上昇や人手不足が顕著となっており、新型コロナウイルス感染症流行前の業績水準までの回復にはなお時間がかかる状況にあります。

当社グループは、このような状況のなか、既存のお客様への様々な提案を通じ、サービスの維持・拡大に努めるとともに、中食・惣菜関連、給食・ヘルスケア関連等の新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい業態への営業活動を一層強化し、さらに引き続き諸経費の圧縮を進めてまいりました。

なお、2022年3月18日に「資本業務提携契約」を締結しました国分グループ本社株式会社とは、各種部会を立ち上げ、提携内容の具体化に向けて協議を進めております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は261億92百万円(前年同期比36.3%増)、営業利益は59百万円(前年同期は9億61百万円の営業損失)、経常利益は85百万円(前年同期は8億31百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億4百万円(前年同期は7億97百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(食材卸売事業)

当セグメントにおきましては、夏場の新型コロナウイルス感染者数が拡大する局面はあったものの、第1四半期に続き売上は回復基調にあります。当社グループは、既存のお客様への様々な提案を進めるとともに、引き続き経費削減に努力し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい業態への営業活動を進めてまいりました。

このような結果、売上高は236億73百万円(前年同期比38.1%増)、セグメント利益(営業利益)は3億37百万円(前年同期は6億11百万円のセグメント損失)となりました。

(食材製造事業)

当セグメントにおきましては、主に連結子会社キスコフーズ株式会社が食材製造を行っております。世界的な原材料やエネルギー価格の高騰に加え、円安の影響により仕入コストの上昇が続いております。これに対し適正な価格にするとともに、一次工程の内製化等によるコスト削減や通販会社等の新たな販路開拓を進めてまいりました。

このような結果、売上高は24億73百万円(前年同期比20.3%増)、セグメント利益(営業利益)は83百万円(前年同期比513.6%増)となりました。

(不動産賃貸事業)

当セグメントにおきましては、主に連結子会社を対象に不動産賃貸を行っております。当事業の売上高は69百万円(前年同期比0.1%減)、セグメント利益(営業利益)は51百万円(前年同期比22.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ10億39百万円増加し、187億13百万円となりました。これは主として受取手形及び売掛金が4億56百万円、商品及び製品が4億21百万円増加したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度末に比べ1億44百万円増加し、150億41百万円となりました。これは主として短期借入金が9億50百万円、長期借入金が2億67百万円減少し、支払手形及び買掛金が15億3百万円増加したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間の純資産は、前連結会計年度末に比べ8億94百万円増加し、36億72百万円となりました。これは主として国分グループ本社株式会社に対する第三者割当による新株式発行及び自己株式の処分によるものです。この結果、自己資本比率は19.6%(前連結会計年度末15.7%)となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前年同四半期と比較して28百万円増加し、36億87百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金は、前年同四半期と比較して10億61百万円増加し、9億18百万円の収入となりました。これは税金等調整前四半期純利益が85百万円、減価償却費が1億58百万円、仕入債務の増加額が14億80百万円であったことに対し、売上債権の増加額が4億32百万円、棚卸資産の増加額が4億50百万円であったことが主たる要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金は、前年同四半期と比較して69百万円減少し、91百万円の支出となりました。これは有形固定資産の取得による支出が57百万円、その他による支出が25百万円であったことが主たる要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金は、前年同四半期と比較して5億94百万円減少し、7億32百万円の支出となりました。これは株式の発行による収入が5億63百万円、自己株式の売却による収入が1億37百万円であったことに対し、短期借入金の減少が9億54百万円、長期借入金の返済による支出が5億55百万円であったことが主たる要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。現時点での連結業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました連結業績予想に修正はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,537	3,688
受取手形及び売掛金	5,267	5,723
商品及び製品	2,404	2,825
原材料及び貯蔵品	292	335
その他	528	477
貸倒引当金	△12	△13
流動資産合計	12,017	13,037
固定資産		
有形固定資産	2,410	2,382
無形固定資産	367	306
投資その他の資産		
投資有価証券	1,237	1,325
その他	1,744	1,764
貸倒引当金	△103	△102
投資その他の資産合計	2,878	2,987
固定資産合計	5,656	5,676
資産合計	17,674	18,713
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,308	7,812
短期借入金	2,323	1,372
1年内返済予定の長期借入金	1,041	853
未払金	756	862
未払法人税等	68	29
賞与引当金	217	268
その他	420	368
流動負債合計	11,135	11,567
固定負債		
長期借入金	3,020	2,753
役員退職慰労引当金	215	224
退職給付に係る負債	223	226
資産除去債務	95	95
その他	207	174
固定負債合計	3,762	3,474
負債合計	14,897	15,041

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	302	100
資本剰余金	249	999
利益剰余金	1,832	1,936
自己株式	△151	—
株主資本合計	2,231	3,036
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	430	469
繰延ヘッジ損益	—	3
為替換算調整勘定	108	157
退職給付に係る調整累計額	7	6
その他の包括利益累計額合計	545	636
純資産合計	2,777	3,672
負債純資産合計	17,674	18,713

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	19,219	26,192
売上原価	15,090	20,457
売上総利益	4,129	5,734
販売費及び一般管理費	5,091	5,675
営業利益又は営業損失(△)	△961	59
営業外収益		
受取事務手数料	19	27
受取配当金	8	3
雇用調整助成金	86	0
その他	39	36
営業外収益合計	153	68
営業外費用		
支払利息	19	26
支払手数料	2	6
その他	1	9
営業外費用合計	23	42
経常利益又は経常損失(△)	△831	85
特別利益		
投資有価証券売却益	79	—
特別利益合計	79	—
特別損失		
投資有価証券評価損	5	—
固定資産除却損	1	0
特別損失合計	6	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△758	85
法人税、住民税及び事業税	7	21
法人税等調整額	31	△39
法人税等合計	39	△18
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△797	104
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△797	104

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△797	104
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	119	38
繰延ヘッジ損益	△1	3
為替換算調整勘定	23	49
退職給付に係る調整額	0	△0
その他の包括利益合計	141	90
四半期包括利益	△655	194
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△655	194
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△758	85
減価償却費	165	158
のれん償却額	16	18
雇用調整助成金	△86	△0
固定資産除却損	1	0
投資有価証券売却損益(△は益)	△79	—
投資有価証券評価損	5	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△4	△0
賞与引当金の増減額(△は減少)	86	50
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	3	2
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	5	8
受取利息及び受取配当金	△11	△6
支払利息	19	26
売上債権の増減額(△は増加)	365	△432
棚卸資産の増減額(△は増加)	△122	△450
その他の資産の増減額(△は増加)	60	40
仕入債務の増減額(△は減少)	76	1,480
その他の負債の増減額(△は減少)	16	△6
小計	△241	976
利息及び配当金の受取額	10	5
利息の支払額	△20	△26
雇用調整助成金の受取額	115	0
法人税等の支払額	△20	△38
法人税等の還付額	12	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△143	918
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△69	△57
無形固定資産の取得による支出	△17	△5
投資有価証券の取得による支出	△1	△3
投資有価証券の売却による収入	80	—
その他	△13	△25
投資活動によるキャッシュ・フロー	△21	△91
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,370	△954
長期借入れによる収入	2,000	100
長期借入金の返済による支出	△739	△555
リース債務の返済による支出	△27	△22
株式の発行による収入	—	563
自己株式の売却による収入	—	137
配当金の支払額	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△137	△732

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	31	56
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△271	151
現金及び現金同等物の期首残高	3,867	3,536
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	63	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,658	3,687

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年4月11日を払込日とする国分グループ本社株式会社を割当先とする新株式発行及び自己株式の処分を行い、資本金及び資本準備金が274百万円それぞれ増加し、自己株式が151百万円減少しております。

さらに、2022年6月24日開催の当社第75回定時株主総会決議により、会社法第447条第1項の規定に基づき、資本金を476百万円減少させ、同額をその他資本剰余金に振り替えております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が100百万円、資本剰余金が999百万円となっております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の連結財務諸表「注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	食材卸売事業	食材製造事業	不動産賃貸事業		
売上高					
外部顧客への売上高	17,119	2,055	3	41	19,219
セグメント間の内部売上高 又は振替高	20	—	66	—	86
計	17,139	2,055	69	41	19,306
セグメント利益又は損失(△)	△611	13	42	△14	△569

(注) その他は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり物流受託事業です。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	△569
セグメント間取引消去	2
全社費用(注)	△395
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△961

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	食材卸売事業	食材製造事業	不動産賃貸事業		
売上高					
外部顧客への売上高	23,667	2,473	3	48	26,192
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6	—	66	—	73
計	23,673	2,473	69	48	26,265
セグメント利益又は損失(△)	337	83	51	△19	453

(注) その他は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり物流受託事業です。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	453
セグメント間取引消去	2
全社費用(注)	△396
四半期連結損益計算書の営業利益	59

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(収益認識関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	食材卸売事業	食材製造事業	不動産賃貸事業	計		
首都圏	12,397	1,739	—	14,137	35	14,172
中京圏	822	65	—	887	5	893
関西圏	2,342	146	—	2,489	—	2,489
海外・その他	1,556	103	—	1,660	—	1,660
顧客との契約から生じる収益	17,119	2,055	—	19,175	41	19,216
その他収益	—	—	3	3	—	3
外部顧客への売上高	17,119	2,055	3	19,178	41	19,219

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり物流受託事業です。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	食材卸売事業	食材製造事業	不動産賃貸事業	計		
首都圏	18,028	2,042	—	20,071	45	20,116
中京圏	1,086	76	—	1,163	2	1,166
関西圏	3,222	210	—	3,433	—	3,433
海外・その他	1,329	143	—	1,473	—	1,473
顧客との契約から生じる収益	23,667	2,473	—	26,141	48	26,189
その他収益	—	—	3	3	—	3
外部顧客への売上高	23,667	2,473	3	26,144	48	26,192

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり物流受託事業です。